



五女海心

文化元





夫南無庵の居た處に坐方
 子の見水乃流ありて春波柔
 をあめし坐居よ東山に日景
 阿多く満花園よかんを
 宴に何國に妻もおへて感ハ
 東野よ喰ひし感ハ西野よ歌
 出さるる中よは庵の風物を
 しあひに里を去りしとき流



早稲田大学
 文学部図書

特定課題
 雲英未雄
 58- 6617

く管をかきぬり 竹 鼓 吹 志 欠 欠
東 侍 人 くのい ち 侍 づ づ づ づ
さ づ づ づ 花 佐 糧 ち ち ち ち ち ち
願 未 別 又 連 り づ づ づ づ 願 禮
洞 の 下 踏 音 を 奏 一 ち 侍 ち ち ち
祝 翁 け 思 津 浩 ち ち ち ち 祝 音
〜〜〜 白

子 化 紀 元 甲 子 春 執 古 堂 葦 堂

た ぐ ち ん 小 ち や づ ち づ ち 操 哉 武 隈
や 什 燈 の 岬 哉 ち ち ち 水 葵 虬
燕 乃 巢 ち お ち ち ち ち ち 家 ち ち ち ち 稽 古
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 何 年
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 芦 酒
船 ち ち 日 ち ち ち ち 乃 侍 月 玉 屑
糸 の 河 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 其 成
月 峰

子住くら糟登まぐの一隈也 在貫

虹のきぬもしらぬ屋ら登 馬印

柴の戸も井圍をあらへぬむく 葦笠

片むらひれ子乃もの懐をまき 荷屋

穀日乃きくなき酒をおこし 玉洋

百方遍れ屋松よおく家 玉藻

鼻れ啼よの耳をくらみけ 八仙

雨さししぬるたきもの 五麻

あまの月の笑まぐ月れちらふ 白黛

毒よかきよく實方乃宮 漢水

いたけなく地ををい何り秋の蝶 其白

牛返よきく着いれぬぬ 孤石

暁乃川漱小花衣せきと冬く 斗雪

妻くかきむ家稀のうき 盛李

からく所をたぬい候のまよき 驩彭

人のあつたる却乃心玉板 宋也

おしはるおおちた家さく 子代

かこちよきぬるおのたてと 有人

をくち後きるほりの雨流氷 玉柱

折りの雲をききしきえたり 布雲

雲かへく東は日粟飯家のめし 乙乃

あゝかゝもぬき顔のたれお 百磨

曇とくわれとをいひ出さ 雨翁

ふはふひしふちをた清仏 玉相

字難のよき月と志の月の露 秋守

やせし芒乃まじ梅子出守 表鶴

鴨のこもく〜通し菽乃中 梅笛

ちや〜も〜る。七十乃老 百池

右一册

菽中やひと〜を〜り山さくら 大坂 長為

一さちハ仙洞換り〜りのあり 久頂

晴天ふけ〜き作り〜仰るる、 飛良

か了〜八月より〜を〜けあり、 吾菴

る志も〜春のか〜屋〜簀と笠、 春思

おくそ〜乃なき風情や枕の花、 買風

〜啼〜又夕〜れ此余さ〜れ 五本 五調

扱の花あけりほとあき語り
相極

水うねり柳ゆらり扱の影
堀 萱堂

片一拵の樽と酒くらや花むら
大木五束 土也

虹きききく層くらぬおや夕片ら
徒侍後申 我青

正月とりみちとほそた柳くれ
河内富岡林 甫六

一もよの暎とちるとのきくら
城南高木 貞隆

夕風や六田一流き花を吹
宇治 恭峨

とや霧はくくゆるや萱州
鳥江

雨さぬくきく葉を存様うな
相恩

花咲やうーろの山も花は山
馬洲

松うきた煙とくぬけくらうね
如裕

くよーのや様をみる人の影
直江水口 屋洲

山吹を折葉小なりし小面くれ
平松 亞溪

ちる花よそえくふきくく葉は
志了

葉の花やうねもあまの山様
日野 素艶

舟をうてを魚鳥馴ゆる様を
松蘿

一枝もあう春のたらのきくら
齟老

山吹や花のくさあおくり八幡 芳之

賞も地敷何りくや花の蔭 栢翠

日中の歌となりり里木蓮花、 葉之

灯のもたけ家をたよりや花も走井 烏頂

皇乃空やうあわと花三井寺 様 子影

土雲たうつふせも花の名跡大津 蓮泉

花をうらゑおとむ代えぬ 流産

柴の戸や明体とらふを宇洋 莖

うらあはれより春の子香五束

夕月も又くも堅田 花様くれ 文常

朝くも志賀の煙、花のぬし、 左麻

た川鮒のとくは水や板籬邑 屋

二三あけはれ乃大津 棲りぬ 蛭石

东风吹や日の歌低き雲の原、 無禁

乃つゝも人も何こ山さくら、 梧月

水色あふくらまた木の葉一居

字の戸小ぢよとら音羽 田原

うらひすや小堀有たる藪の共、野田 露山

横たをな枝くら 梅の候より重、鴨 猶潤

志なうへくるふよ見たゆる様うぬ、万木 砂文

朝の茶拂ふて見るや細きくら、金中 木容

又ひくの森よ来る名や山様、 糸秀

花さけおの森らねぬと中り重、 一溪

夕柳朝のりききもとりり、廿東屋 凡旧

松のおくなを春らに子のおひ、 梅二

春は水木の根くよもれり、舟木 夢二

ものゝろくまき毎と来より重、 獅丸

温縁像吉きものめくたれ、 雲尾

高向への海をゆきおれ山影に、 相川

おきるハ山のあきこゝおなる月、 崎人

もの影は赤くやう之緒を、 湖夕

思ふかとおひんつきぬ片くら、 素人

上賀茂や吉きまゆる松陰、大因 瑞菴

島くら鐘響くおる波鳴れ、 乙鶴

中くおをいのちをさくらら、伊勢前田 辰平

比山や志たらく花の影ありき 一之

花の世を鳥は昔は教わらる寺方 里朝

あきやうそとゆれと花の影あり四日市 眠五

らんらんぬれと教ぬ花の影あり津 涼花

まじり家を高くなりぬ月 花秀

谷とえくく里の梅は通ひぬ廿 梅露

作向小森く盤ぬくや春の雨二月田 牛一

よく衆む春やくく尾張 梅間

ほのたりと煤の落りあり花の影あり相模五福園連 南謨

日暮あても降ても吹てもはくらく哉 江水

なき人を枝ふ横の山影あり 樗風

咲花ふあふぬくを水の果 松烟

夕顔や片らくらり五たぬれ佛 五ト

さくらく山のあり川何侍るよ 母節

世の井や花はあり乃煤山 路丸

初花や芽折の影はありき 浦唄

君り代や系 櫻 鞆玉

ち花やいりも 紙き下り紙 兔夕

花の日や聞えりたる 三井の種 文的

いや偏し花の帯やふもと川 花洞

水底のお月つらなちと 楳 六元

花出巻三日の月おほきやし 浦夕

山深し楳咲日のさよ乃あや 乙芦

花はあいつもかりし谷は水 川画

花の山ををひらく人もぬし 臨水

花の山ををひらく人もぬし 岩芦

山楳のり人のよき里にり 丈夫

人里ハ夕告鳥や楳りち 里旭

花の香ものもぬき水は 芦尺

花の香ものもぬき水は 正二

咲はくし花つくしも 楳く 丈夫

漁父もと浦志川や夕露 上毛大原 書蒲

柳陰月の水川は何れありち 安房江見 松後

山川は朝日をまきこみ小館ち 奥南部 梅笑

永き日や赤子井一田三反、北溟
朝莖等采ならぬ日のり赤、津軽里川
春の月歌日ころは扱せり、枕仙
さくらさけ十日あまりの音月扱、文石
人色く鳥ハ森より望、梅月扱信濃南原知足
いたつら子短子の啼立林麻くれ、志耕
妻の扱乃不二を見あくる在上極汝榮
夕くれや松と桜の山ふくら、善光寺ふ祀
山の馬ハ人鳴でよーむの夜、希言

妻るのころハ早し子は宿、松本雨曉
菜の花は書や豆の種なる、可考
森るころは陣出も又す妻の雨、上田羊古
くくひきやよくくゆえ苦もをく、伊奈梅子百
厂刈くおろちと芦の丸屋裁、飯田何候
棧やかきけしや鳥きよ入、蕉雨
か入や赤きころは花ころ、越前丸岡南立
案の井を馬乃啼里、里暗

春風まきき白ひよ春く水く

丹柱

白木つくり乃もの手軽き

友甫

片えくと樹の鳥比月明ち

子産

毛十ハ族乃おちつきー秋

袁耕

岡崎の桑色り水淡く

東夏

朝し風寂まのく棕の木

石溪

菴籠のふち川のた次竹柱

江翠

素焼茶碗乃おちきふあれ

茂柳

暮雨入る夏へ海おらきん

画風

一時雨川くくく月影

一透

片よきく横は船の炭徳

素涼

何そといへた妹り精色

一吼

佳奥ハ意よくふれやすき外

席角

とらら思くもおれ山石

雨鶴

蓮梅塩たぐ煙うちり里

童至

眠りちなる春の狩人

筆

時をきぬ山の涼片は楳加里

直人

廿の花やその梢まゝむらり

僧 姦耕

りいなわ黒木此目くつ花盛

石溪

たをとりへ子の味ありを

席角

一さちふ曇る川へや初桜

江翠

咲桜志たらくををるのり

丹桂

悔の巢いり人もるぬ桜哉

一吼

初をや散つてある二五門

里曉

曙や月くくろ子花のき

茂柳

人しく小鶴の桜乃はりけ

友甫

花方へ巡存桜の日あき

一遠

茶んえく朝乃歩歩をおる

夕菴

けく茶子人のくろたうくや

素更

人きく花と赤ふの夕り歌

素涼

花の人と赤も咲けん枝と笠

終玉

ふさや薩はくくへの春の月

角鹿 仙草

三日月や末たのまーた花の喜

若狭 子好

棋々魚や水音居そき扱の庵

義作倉鋪 井角

人きく 横ふく高、あらー山、高下、女子

山さやりさも 麓て 守面の 籠子 但馬舟谷 五合

なもとを 入矢 柿あり 埴田の水 豊岡 約淇

青柳乃 浦となり 一在 以 徳智橋

鳥さへ 柳を 立た 名 跡あり 柳蓮

大面小 柳より 日く 水に 因幡鳥取 大塚

妻の水 見入く 階あり 流れり 里 柳丘

は 花ふ 生れ おくれ 籠子あり 丹波氷上郡 籠

菘も 見たり ちり ちり 喜て 居 丹波日南浦 菘木

船うけの 垣た 戸あり 加賀金澤 柳松

山はく くら 巖あり あり けり き 棹江

萱より かなり ぬお 山た 赤く あり 赫之

畑中 の木も 花と さい 詠あり 一川

猫の さい いろも あり あり あり 五合

陽空 平子 たち ちの 吉菜 あり 松崎

片ん すと 家十 ちり ちの おく 葉吹

永き 日 菘 志 あり 籠子 あり 徳島 籠

暮柳舎連

白雪の吹雪りてくぬの花

秋

春風や人ほつくと紫煙

階涼

海よりと思ふおもあり丁の巻

素羽

花二木うきく月も二枚ん

槐路

とくたわく一日あり花燈

車大

川より何となくわの短子の巻

友樹

花の巻吹やよしの巻の巻く人能

其如

三井さいはやとるあり巻れ月

素絹

二より一日よりよたある椿

乙亥

お六乃おや月五尺乃板陰

秋侯

道守と垣川おとせうめの花

雪柱

花の宿のりもの一板のめ

自明

おおとふきくく鳴なり猫の扉

攻玉

咲おれかゝる流乃水りり

文路

水いそくやうに流る巻の風

李溪

谷阿きた里の巻まや初から

儿山

ふきくら巻あらそふり

赤翁

あうき日やいつれの巻と見空ん

李之

独登四雀演

高松

槐庵連

尋事はふもこの家やふさくら里嶋 加庄

吹分秋風よらるあはくらら井 魯石

ふけやふにむきあふ花あは 破井

あさくらららららのふらららら 魯曾良 花

石のきうぬものも似らるあのか越中富山 三枝

鐘乃後宴飯何そふ里れ子 田木

ふららららの蝶れあふ来る垣ゆて 魯鳥

うらさくららららふら乃うねなる 踏月

片ふらら月をかきあは石のゆき 二尺

ふけりあ あらさるる藤れ藤りり 馬城

世をきくららららの足き秋のれ へを

小錫のほらまき かまらをり釘 嵐太

二之日ふららの船あかてやり 雉印

細板あくらららの柳は涼風 黄帆

柳岩とならやあら家の船りあう 二尺

秋はけららのあふららのや雛子の芭 魯鳥

戸の先子縁えたり 春乃山 俗権

梅りにも心くたし戸口か 可五

あたらしく礎とありし喜百子 馬城

咲とえしけり海山の赤つし 三枝

かきりふたうた志志や 柳久礼 路月

曉や柳よかきりき河り 秋山

うこかつくりや 操北山つき 嵐土

たうくと干阿る海苔の夕日 右糸

廣庭や様ありへくも子様 鼎々

片くら候く浮世めきたる廣外 碧山

山の端よ鐘はきりて春えぬ 玉層

長息れ里よやうりく殿の女 斗一

あうらうらう世浦うせの女更に 美丑

舟曳の柳 夏外 阿うし外 東英

短冊やうら乃花の咲き 羽扇

籠子たうりけ何らに有り 妻富 路甫

苗一ろや早乙女は浦の女の人 石亮

左もとりみこくゆるん運はくら 鳥休

思ひきんくひさ人あり夕様 福岡 松丘

春のほきをたとえろくの様は 羽扇

時や乃鞆鼓のおや板のむ 魚津 窓窓

夕られや様とちや水乃面 孤山

ささくつゝ岩もほしき花の上 周臺

あし花中ゆく春の何は事 魯山

さくららの春は春さくくはの枝 久景

谷川や魚のうく白を花のうき 大梨

かやのよがれ運河ち柳のむ 小林 河妻

人壽や面乃たのむ 滑川 五遊

蛤乃蝶よりけくはくらん 三丸

几巾のきりりし浦のまき登 海妻

春の春は板扇ふのせと来て 成美

あやほ沸くる春のふとる 五遊

鯨ほくく名者ともる面の被 妻

麻ふふゆき 森れとたむら 丸

草の葉も何なる何なる夕月秋

秋とちきりし人のこころ

遊 茨

三笠山風吹きぬく春乃月

越後今町 驛 彭

日の出處 島もちりちりたるの風

魚 國

花は此時しをいとちりちり

高田 杜 芝

春戸の梅よとほれ夕日

川 夫

あけや海士り垣松もきれれ

紫井 左 琴

とちりちりも梅よ色し

及の石 如 葉

そなたなくもる海りあまの月、旭浪

そなたなくもる海りあまの月、旭浪

松のうへハ松の閑ありむのれ

柏崎 平 水

花のよやめくたた家此後ま

魚沼郡松林段 日 林 魚

梅さくりすり音し観 汁

長岡 大 弘

もちふ乃小松かき子の日

宇 瓊

鶯もあつ山添り星 花乃山

播磨明石 枕 下

梅津より板ハ明初く雛子の色

板 急

扱もさうら香の唱しハとの様、
 何一本もくても森よりまの月、
 山吹のあそびれハ花子菜より、
 人のまものありくくくむのる、
 秘り中の秘あり夕のむけり、
 ろひつる定の梅も笑みり、
 縫子唱やぬり結末ハ乃きへ、
 扱しの愛おきなれを細さくら、
 花ふめを三寸さくらあくら、
室津 士竜
橋中実友 里芳
備後福山 羽白
西房 牛塚
三原 土芝

出女のほくまかへんやまの氷、
 縁ぬれハ豆腐此水や純月、
 のり、片や汐きハ涼乃歌あり、
 字も木もくめり結るやまの氷、
 月の入かきハ梅る、春此下、
 赤日香此消り庭や猫の恋、
 色くくゆる海の初めくや梅を、
 花咲くまたハき唐と菜なり、
 茶のねくゆハき氷流れり、
安藝宇廣嶋 五麻
小方 可友
周防白松 摘竹
 和及
 春以
 古桂
 百之
長門下関 冬露
 萬府

ほくちたつとろより人の花より 羅風

流れ木の花は雨あふれとみか 豊浦山下 文梅

いろくに花家申乃きき 瀬 五花

晦日の扱も有明は清く 瀬 晴嵐

ちり神しよそ満ちのち登 港路 柳里

妻の扱乃とろ此何處 戸口 玉花

わら門の月扱をこぼる 二月 梧園

とろれ梅釣瓶の水比きれ あり 文亭

露ありと走らる 雷乃一期 豊前倉 黙雷

は妻もより 燈の花 ちるとふ 十邑

朝の風扱をこく きつ 豊后日田 葵亭

咲花乃一枝 と見ゆる 山 有篁

思ふた る 木に咲にり 細 南炎

百年に老 は 花 と 筑前峰濱 森梅

ち花ゆ 意 かな も 娘 を け は 魯

見つ を 水 と 照 の かげ と 有 る 扱 亦 直方 一萍

妻の来 と け は 有 る 花 の 朝 と 筑后久留米 芦月

山さくら見ゆく人も花那ん、
 夕月小梅ちる里のこち哉、
 常よさく扱ぬる水一花の春、
 花咲く海よ入日乃あしり、
 雨を待て梅乃ひる人ひらき、
 川水ふかりる春此をけり、
 万葉のと目りる春の及ひは、
 あり、袖よ白ひをうつや、
 児梅こゝもい花扱待よりあり、

彼那

後平

久角

其成

枕仙

春喬

李曉

孤不

子来

肥前嶋原

諫早

水桶よ来く唱音乃魅くれ、
 ねんちくは春風あたる夕可那、
 乙十冠子梅のひの歌夕可、
 晴しかゝる戸明れた花の隣、
 梅くまよ着くほのれを梅あつ、
 花の山扱はけりあつる、
 春の扱や何し人此着る春、
 春さち由水流れり春の花、
 扱さるあつる春あつる、

詞英

春河

階渚

倚鳳

子波

雨仙

話笛

久城

李曉

長崎

ふのたまきはあはれく月は能く 吾友

鶯乃志たらくも鳴夕可那 今

咲花のあはれくらち存様外 鞍風

在ふよハあはれく船何りまの愛 様木

枕咲く甫醒き春色の歌 平戸 井甫

峰の花机乃落とちりふり木 肥后熊本 眠石

若くねく若よひうう日あふ 淑家

けあはれ存鞠は志くぬく乙冬外 荑阿

夕そこの若ふあはれ水くくぬり 朝四

ものよまはまきあひりーた山後外 碧泉

まふ乃そくそ何きてや小米花 女 木曾

夕日さけ陸まのりあり花の山 天山

三日月はほよりみ春は思ひ外 羽人

片波のたぐくハ月机の様うき 箕溪院 岫丸

梅咲く世は中ひろく栄より木 其冠 其冠

いめの石も海白ふんきき様哉 復貞

おなつく鷗くきけりまの海 親月

まきの葉はきらうしく延く湖のいろ 在江登 歌旌

此忌のうね人のあひまひきり 城南寺田 良水

うハ浪うねりもかみくや花は愛あり 在京 居枕

葩煎賣のせく車は枕のけり 京 玉相

花のたもと那あゆく峰は嵐 京 百池

木のこけはけし梅乃白ひ 京 野丹

花ちりく又山里となり 京 亭

雲をく入日くゆく 京 漢水

うけ細やく水ハあの世れめら 京 安ふ

らんるりまきもく 京 春山

子さもく 京 乙乃

櫓さの屋根よ 京 浪登

短子唱や 京 子代乃

片をくられ 京 鳥幽

指ま 京 湖月

月 京 琴篇

をぬの 京 吐成

とあり 京 松丸

志の川や楊木浦一は梅の花、
 いそ〜き門板出れと柳の、
 水流と〜水たきち熟夕暮、
 中よ〜日暮陣山乃さくら外、
 雲の川夕月白く流氷り至、
 とけく〜と日ぬらぬ〜之花の若、
 花の扱や半ふ〜と流氷月橋、
 人も赤も花よけくらよ出てけよ、
 永き白や鳥もお有る松の枝、
 其白 雙南 鬼洞

在江戸

山風や月の外よりちるけくら、
 九重や先一重なるは川橋、
 あら右の水小流〜き楊り歌、
 鶯や定乃先なる清水寺、
 日和山の多れとけくら日きりな、
 海苔汲れ神もかゝる小面哉、
 ひと山乃楊よなや小舟外、
 人い〜の楊子つり山を色外、
 矮子の赤木涼くぬりぬ男山、
 京 月峰 在貫 宋也 古塘 芦渥 葦笠 百磨 園旌 玉蔭

水もらふ家の意まゝく様うき、
 日のおくはく、善木はくゆる、
 尻ききく、善木はくゆる、
 花は、
 梅一重咲なり、此良の山あり、
 春のふりも、
 飲く、
 花を、
 小きき、
 布雪、
 阿摩、
 岱李、
 其成、
 東頑、
 玉洋、
 馬印、
 田永、
 彦丸

文化乙丑春三月京都ヨリ下朝四

御幸町錦小路上
 桃林堂勝田喜右衛門
 京都書林 鳥丸下立上
 橘榮堂勝田善 助

